



旅の図書館

40年のあゆみ

—時代を追って—

旅の図書館は、2018（平成30）年10月、開設から40年の節目を迎えました。1978（昭和53）年の開設からの20年は「観光文化資料館」として、その後の20年は「旅の図書館」へと名称を変え、今日まで歩んでまいりました。この間、当館を取り巻く社会環境も大きく変わるなか、3度の移転も経験しました。時代とともに当館40年の歩みを振り返り紹介します。

誕生前史

1975

- 世界観光機関（WTO）発足（1月）
- 「観光文化情報センター」の設置（7月）

「教養型旅行者」の情報ニーズへの対応を目指し、当財団資料室内（大手町ビル別館5階）に設置。対象者を限定した情報提供サービスからスタート（1976年一般公開）。

1976

- 機関誌「観光文化」創刊（12月）

1985年5月（vol.52）～2011年3月（vol.206）まで図書館が編集を行っていました。

1977

- 沖縄国際海洋博覧会開催（1975年7月～1976年1月）
- 「第三次全国総合開発計画」閣議決定（11月）



「観光文化」創刊号

1978-1984

草創期

観光文化資料館の開設 ～図書館としての基盤の確立

観光文化情報センターを改編・拡充するかたちで、観光文化資料館を東京駅八重洲北口そばに開設。観光文化を向上させたいという開設時の理念に基づき、周年事業を展開しながら、文化講演会の開催やコレクションの充実を図りました。開館6年目（1984年）には来館者数が10万人を突破しました。



蔵書数
約4,000点

1978

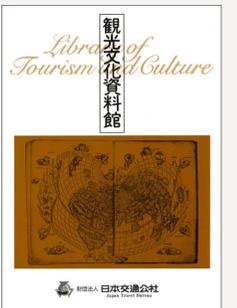
- 新東京国際空港（現成田国際空港）開港（5月）
- 日本、世界観光機関（WTO）に加盟（7月）※当財団も同時に加盟

- 「観光文化資料館」開設（10月11日）

東京駅八重洲北口の第一鉄鋼ビル1階に開設。



上：開設当時の観光文化資料館（外観）
左：開設当時の館内の様子



開設当時のパンフレット（1979年）

観光文化資料館開設に込めた西尾壽男会長の思い

—「観光はそれ自体が文化であり、その文化を向上させたい」—

西尾氏は、かねてから観光文化資料館を開設するという夢を持っていた。「旅行は単なる物見遊山で終わってはならない。旅行者が事前に目的地に関して調べ、十分な知識を得てから出かければ、その旅行の内容は濃いものになる。交通の便利な場所に専門の図書館を設けて利用者の勉強の手助けをしたいというのが西尾氏の思いであった。（社内営業部門からの反対意見があるなかで、）「旅行専門の図書館を政府に期待しても実現はなかなか難しいだろうし、世のためにそういう文化的な仕事をするところこそ公益法人に相応しい使命だろう」と西尾氏は考えるのだ。」

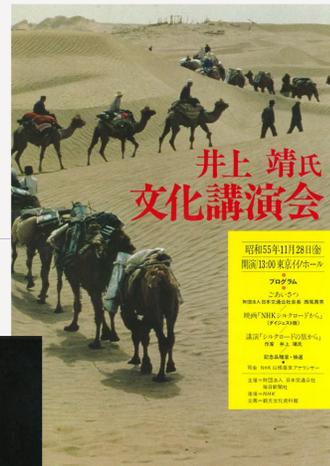
1979 ●

- 第二次オイルショック (2月)

● **来館者数が1万人を突破 (8月)**

● **開設3周年記念「第1回文化講演会」を開催 (11月28日)**

講師：作家・井上靖氏「シルクロードの旅から」



1980 ●

● **開設3周年記念「第2回文化講演会」を開催 (2月16日)**

講師：作家・松本清張氏「古代史の旅」

- イラン・イラク戦争勃発 (9月)



上：第1回文化講演会チラシ：
井上靖氏「シルクロードの旅から」
左：第2回文化講演会：
松本清張氏「古代史の旅」

1982 ●

● **開設4周年企画：
機関誌・時刻表を収集・展示**

国際線の機関誌 (33誌) を収集・公開／国内各地の私鉄やバス時刻表 (23種) を展示 (10月)

1983 ●

● **「民族文化の旅ゼミナール」開催 (1983-84年)**

文化講演会は第3回から『民族文化の旅ゼミナール—講演と対話』として1984年まで4回開催。
以降は(株)JTB主催「JTB旅行文化講演会」として引き継がれた。

- 東京ディズニーランドオープン (4月)



「民俗文化の旅ゼミナール」
第1回・第2回案内チラシ



開設4周年を記念した
機関誌の企画展示

1984 ●

● **来館者数が10万人を突破 (5月)**

1985-1995

成長期

来館者の着実な増加

国による様々な観光政策の展開や旅行市場の拡大とともに、来館者数も着実に増加していきました。1988年に20万人を突破、バブル崩壊後の低迷する社会経済の中でもサービスを低下させることなく運営を続け、1995年には年間来館者数が約3.7万人とピークを迎えました。

1985 ●

- 国際科学技術博覧会 (科学万博—つくば'85) 開催 (3月)

1987 ●

- 国鉄民営化 (4月)
- 「第四次全国総合開発計画」閣議決定 (6月)
- 「総合保養地域整備法 (リゾート法)」成立 (6月)

1988 ●

● **来館者数が20万人を突破 (2月)**

1990 ●

- 年間日本人出国者数1000万人達成

1991 ●

- 湾岸戦争勃発 (1月)

● **来館者数が30万人を突破 (7月)**



来館者であふれる館内 (1991年6月)

1993 ●

● **開設15周年：
特別記念展示「世界と日本の時刻表フェア」開催 (10月)**

国内外の鉄道およびバス時刻表 (約32か国80点) を公開

- 屋久島、白神山地が世界自然遺産、姫路城、法隆寺地域の仏教建造物が世界文化遺産に登録 (12月)

1994 ●

● **月間来館者数過去最高を記録 (4月)**

● **来館者数が40万人を突破 (7月)**

1995 ●

- 阪神・淡路大震災 (1月)
- Windows95、日本で発売 (11月)

● **年間来館者数36,876人を記録 (1995年度)**



「世界と日本の時刻表フェア」展示風景

転換期

1996-2015

2度の移転、環境変化の中で 専門図書館としての力を蓄積

2度の移転に加え、1990年代後半からのインターネットの急速な普及など、当館を取り巻く環境は次第に厳しくなるなかで、図書館機能の充実に取り組みましたが、専門図書館としては大きな転換期を迎えました。当財団本部との一体的な移転計画が具体化してきたことを機に、本格的なリニューアル準備のため2015年9月末、一時閉館しました。

蔵書数
約19,000点

1996

第一鉄鋼ビル1階から 第二鉄鋼ビル地下1Fへ移転(10月)

書架・施設の拡充、経費削減を目的として移転。10月1日再開館。

右:第二鉄鋼ビル移転後の図書館(館内)
下:カウンター(現図書館の地下カウンターとして今も活躍)



1997

来館者数が50万人を突破(5月)

1998

- 長野冬季オリンピック・パラリンピック開催(2-3月)
- 「21世紀の国土のランドデザイン」閣議決定(3月)

開設20周年: 記念式典「観光文化資料館開設20年を祝う会」開催、 『観光文化資料館二十年史』発行(10月)、 海外ガイドブックフェア開催(10月)

海外ガイドブック1200冊を収集・展示



1999

「旅の図書館」へ名称を変更(4月)

開設20年を機に館名もわかりやすい名称に。

2000

蔵書を広く公開することを目的に増床(6月)

2001

- 米国同時多発テロ(9月)

インターネット蔵書検索システムを導入(4月)

2002

- FIFAワールドカップ・日韓大会開催(5月)

雑誌「ツーリスト」「旅」のデジタル化に着手(7月)

2003

開設25周年: 「観光文化セミナー」の開催スタート(10月)

旅・観光に関する様々な分野の専門家によるセミナー。2011年4月までに全13回開催

2004

デジタルコレクション(『ツーリスト』『旅』) 館内で一部閲覧開始(9月)

2005

- 愛知万博「愛・地球博」開催(3-9月)

2006

「旅の図書館講座」の開講スタート(7月)

“教養指向型(テーマのある旅)”の普及を図ることを目的に、毎回土曜日の午後に開催。2011年1月までに全10回開催

2007

- 「観光立国推進基本法」施行(1月)

2008

- iphone日本発売開始(8月)
- 観光庁発足(10月)

開設30周年、記念講演会開催(10月)

講師:旅行作家・山口由美氏「だから世界の旅は面白い」、ドイツ文学者&エッセイスト・池内紀氏「旅する心」



名称変更以前から使われていた「旅の図書館」(1997年当時のパンフレット)



「観光文化資料館二十年史」



1913年創刊の
ジャパン・ツーリスト・
ビューローの雑誌「ツーリスト」

1924年創刊の
日本旅行文化協会の雑誌「旅」



旅の図書館講座風景(第5回:柳家小蝸さん
「落語で楽しむ旅の味わい」2008年7月)



開設30周年記念講演会チラシ

2010

● **特別展示の企画開催スタート (2月)**

図書館の蔵書を中心としたテーマによる企画展示を実施。2015年2月までに全21回開催

● **来館者数が80万人を突破 (4月)**



左:特別展示開催風景
(写真はダイビル移転後開催した
第20回「日本の温泉地と観光」)
下:2010年5月当時の図書館(館内)



2011

● 東日本大震災、福島第一原子力発電所事故 (3月)

● **海外電子ジャーナルを専用PCにて供用開始 (7月)**

2012

● **公益財団法人に移行 (4月)**

● **長期経営計画「`22ビジョン」を策定**

「旅の図書館が実践的学術研究機関の一組織として機能する」方向性が打ち出される。

● **八重洲ダイビル地下1階に2度目の移転 (4月)**

第二鉄鋼ビルの閉鎖に伴い移転。

蔵書数
約32,000点



ダイビル移転後の図書館(館内)

2013

● **図書館システム (LIMEDIO) 運用開始 (4月)**

クラウド型図書館システムの導入。蔵書の管理及び検索機能が格段に向上。

2014

● **図書の独自分類の構築 (2014年4月~2015年6月)**

観光に特化した蔵書の専門性に対応するため、観光研究資料 (T分類) と当財団コレクション (F分類) の独自分類を検討・構築。

● **「たびとしょCafe」の開催スタート (11月)**

研究者や実務者との気軽な交流の場の創出をめざし開催。

2015

● **移転準備のため一時閉館 (2015年10月~2016年9月)**



ダイビル時代の狭い館内でスタートした
「たびとしょCafe」(第2回開催風景)



旧館での運営最終日の館内
(2015年9月30日)

再生期

2016-

新たなコンセプトの
専門図書館として再出発

1年間の一時閉館を経て港区南青山に当財団本部とともに移転。2016年10月、
“**観光の研究と実務に役立つ図書館**” という新たなコンセプトの専門図書館としてリニューアル開館しました。

2016

● **(公財) 日本交通公社、文部科学省から科学研究費補助金取扱規定に
規定する学術研究機関の指定を受ける**

● **旅の図書館リニューアル開館 (10月3日)**

財団本部資料室資料を統合。資料館として開設当初の理念を受け継ぎつつ、
観光の研究者・実務者向けの図書館としてリニューアルし再開館。
観光文化231号「「観光の研究と実務に役立つ図書館」を目指して」刊行。



1Fメインライブラリー

蔵書数
約60,000点



B1Fメインライブラリー

2017

● **国連世界観光機関 (UNWTO) の寄託図書館に認定 (3月)**

● **リニューアル開館1周年記念事業を実施 (10月~12月)**

ニュースレター「たびとしょ」刊行、リニューアル開館1周年記念パネル展示、特別企画第11回たびとしょCafe
(ゲストスピーカー: 猪谷千香氏 (文筆家・ジャーナリスト)「人と地域、情報をつなげる図書館~観光と図書館の新たな連携スタイルを考える」)

● **古書・稀観書のデジタルアーカイブ化(及び保存箱作成)に着手 (1月~)**

2018

● **専門図書館協議会より平成30年度団体功績表彰を受賞 (6月)**

● **開設40周年記念事業を実施 (2018年7月~2019年3月)**

観光文化239号「古書から学ぶ」刊行、特別企画第15回たびとしょCafe (西村幸夫氏 (神戸芸術工科大学教授)
「古書から学ぶ未来へのヒントー日本の観光の課題とこれからー」)、古書展示ギャラリー特別展示



ニュースレター「たびとしょ」
創刊号

“**観光の研究・情報のプラットフォーム**” としての役割を果たす専門図書館をめざして